

科学文化センターの自然史展示室の入り口には、原始の森を再現したジオラマ“照葉の森”があります。このジオラマの中には、いろいろな植物が模型で展示してありますが、その中に、赤い花をつけた花木が2、3本生えています。これは、富山市の“市の花木”にも選ばれているツバキです。

ツバキには、いろいろな園芸品種が知られていますが、これらは日本に昔から生えているヤブツバキとユキツバキをもとにつくりだされました。ヤブツバキは、西南日本に広く分布していますが北へ行くにしたがって海岸近くにだけ生えるようになります。太平洋側では、福島県あたり、日本海側では、新潟県あたりまで海岸沿いに連続して生えています。それより北でも点々と生えており、自生地の北限は青森県の夏泊崎です。

一方、ユキツバキは、ヤブツバキとは逆に、山地帯、特に日本海側の多雪地帯を中心に分布しています(図1)。

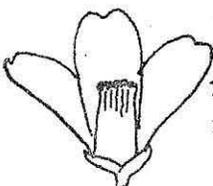
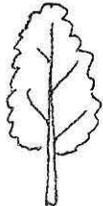
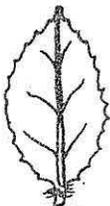
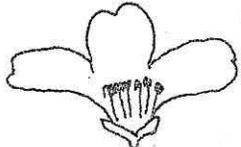
ヤブツバキとユキツバキの違いは、分布している地域だけでなく幹の生え方や花のつくりにも違いが見られます(表1)。



図1. ツバキの分布

ところで、ヤブツバキとユキツバキはどうしてこの様な分布のしかたをしているのでしょうか。ユキツバキの花のつくりや葉の特徴などを調べてみると、ヤブツバキより古い特徴を持っています。また、ユキツバキの分布が日本海側の多雪地帯であることから次の様に考えられています。氷河期の際に起きた何回かの気候の変化によってユキツバキの祖先は、雪に埋もれて冬を越す様になりました。その後氷河期も終わり、気温が上昇するにつれてユキツバキは日本海側の多雪地帯にだけ生える様になりました。一方、ヤブツバキは気温が上昇するにしたがって分布を北に広げ、現在の様な分布のしかたになったと考えられています。(K. K.)

表1. ヤブツバキとユキツバキのちがい

	葉	花	幹
ヤブツバキ	 <p>葉柄が長く 毛がない</p>	 <p>花びらは あまり開かず おしべは筒状 になっている</p>	 <p>主幹があり 枝はもろい</p>
ユキツバキ	 <p>葉柄が短く かく毛がある</p>	 <p>花びらは 開きおしべは 分かれている</p>	 <p>株状になり 枝はおれに くい</p>


富山市科学文化センター

〒930-11 富山市西中野町3丁目1番19号 TEL 富山(0764) 91-2123

○開館 午前9:00~午後4:30
 ○入館料 大人200円 小人100円
 ○最終プラネタリウム3:40より放映
 ○付属天文台 富山市五福8番地 ○休館日 月曜日・祝日
 ☎ (0764) 32-3334 (ただし5月5日と11月3日は開館)